

# 平成25年度第1回高等学校入学者選抜審議会専門委員会 記録

平成25年9月25日(水) 14:30～16:30

自治会館209会議室

## <専門委員>

青木 栄一委員，野田もと子委員，有見 正敏委員，庄子 修委員，加藤 順一委員，  
石上 正敏委員

## <県教育委員会>

山内高校教育課長

(資料配付の確認)

(開会)

(委嘱状・辞令交付)

(課長挨拶(代理：佐藤課長補佐総括))

(県教委関係出席者紹介)

(概要説明)

(座長の確認，挨拶)

## 審議(青木座長進行開始)

座長 まず，次第に従い，この会の公開・非公開の確認であるが，今回の専門委員会は情報公開条例第8条の，非公開情報が含まれる事項について審議する場合，または，公開することにより公正・円滑な審議に支障が生じる場合に当たると考える。以降の審議は非公開とすることを提案する。出席者の2/3以上の賛成により非公開の承認となるが，いかがか。

(庄子委員が公開，他の委員が非公開と回答)

事務局，何名が賛成であれば承認か。私を含めてなので4名以上でいいか。最初なので，一人一人伺いたい。それでは，非公開ということで，野田委員いかがか。

野田委員 そのような内容を含むのであれば非公開でいいのではないか。

有見委員 非公開で。

座長 庄子委員は公開でという考えか。

庄子委員 そうだ。

加藤委員 どういう情報が提示されるかが若干見えない中ではあるが，非公開情報が含まれるというのであれば非公開で。

石上委員 私もそのような内容であれば非公開で。

座長 事務局にもう一度確認するが，この非公開条項が含まれると判断し，提案しているが，どういう情報なのかは，この時点でどのくらいここで話すことは可能か。

事務局 入試のデータに関わる、公表していない情報を資料として準備している。この情報については、傍聴者には見せることができない資料なので、現在は配布をしていない。この後、非公開になった時点で配布させていただく予定である。

座長 非公開になったら傍聴者にも渡すということか。

事務局 非公開になったら、傍聴者にはご退席いただく。

座長 現時点では、非公開の場合には非開示情報について、そのように取扱いをすることになっているということだが、公開するにはふさわしくない情報のようである。庄子委員は公開でいかがかという意見であったので、もう少し可能な限りどういう情報なので、どういう質のものなのか説明願う。

事務局 入試に関するデータで、調査書に関するデータとか、地区ごとに関するデータとか、そういったものが掲載されているので、これを公開することにより、当該会議の公正かつ円滑な運営に支障が生ずると考えるので、非公開と考えている。

座長 一般的に入試のことなので、個別情報が含まれる、地区あるいはそれよりも細かい単位での情報が出てきて、逆にそれがあつて、この調査研究が充実したものになると考える。  
あらためて伺いたい。私を含めて2/3以上の5名の委員が非公開ということに賛成であれば、以後の審議は非公開ということではいかがか。庄子委員いかがか。

庄子委員 議事録がどうなるのかなというのが気になる。非公開にしたにせよ、議事録がどの程度になるのか。

事務局 議事録については、公開にふさわしくない部分は割愛し、全体的な流れが見えるような形の公開用の議事録を、インターネット上でもそのように断りをした上で、公開できる部分を公開するというものである。

庄子委員 そうであれば非公開ということで。

座長 審議に感謝する。只今庄子委員から、確認があったように議事録については非公開の場合であってもなるべく可能な限り、県民あるいは社会に開かれた情報提供するという趣旨で、もちろん非公開の場合の会議録の扱いというのは別途、配慮事項があると思うが、それを踏まえて、今回は庄子委員を含めて全員の同意を得られたので、非公開とさせていただきます。  
それでは、ここ以降は非公開とするので、報道関係者と傍聴者は、退席願う。

(報道関係者・傍聴者 退席)

座長 それでは、補助資料を配布願う。

(補助資料配布)

座長 では、事務局から資料を説明願う。

事務局 (資料の説明)

座長	それでは、今の事務局からの説明について、不明な点のみ、まずは質問願う。
高校教育課長	まず議論を始めるにあたって、実施状況はどうであったのかというところを一通り頭に入れていただくことが大事かと思うので、一ページずつ質問を伺って参りたい。
座長	了解した。まず、参考資料から。入選審でもお示しした資料であるが、このあたりで質問があれば。
高校教育課長	前期選抜のところの上から3番目の表で、募集人員3,600人に対して8,400人の出願があって、かなりの数の不合格者が出た。このあたりの評価が一つポイントになる。
座長	評価については後ほど、検証の観点を含めてご意見いただくことになる。2ページはいかがか。
高校教育課長	下の表が地区別の出願者数で、充足率が一番右に加えてあるが、少子化ということで、実際このような形で各地区ごとに十分に満たない地区が出ているということをここで押さえていただきたい。
座長	ここまでのいかがか。続いて3ページ。学力検査の結果で、何か見るべきところはあるか。
高校教育課長	前期選抜は初めての試みなので、前年比較はできないということで、この点数が低いのか、高いのか。検査問題として妥当であったのかということについては、今後ということになると思う。後期選抜については平均が低めに見えるが、これは、前年比較になっていて、前年度はちょっと高かった。それで今年だいたい下がったように見えるのだが、ここ10年で見ると、ちょうど中位の平均点だったと見ている。
座長	その次はいかがか、4ページそれから5ページ、地区別の流出入について。
高校教育課長	全県一学区以降は中部地区に集中が進むのではないかという懸念があったので、その後の追跡をしているデータである。 上の1, 2, 3を見ていただくと、大きな変化はなかったということということである。次の1, 2, 3は仙台とか中部以外から仙台にどれだけ入ってきたか、あるいは仙台や中部からどれだけ他地区に出て行ったかを見ている。こういった移動はあまりなかったということが1, 2, 3の結果である。4と5は、仙台を中心とした中部地区の中の移動であるが、かつての中部地区の南北学区間の移動はどうだったのかというのを見ている。これを見ると、かなり毎年のように少しずつ伸びているというところがあり、中部地区の中ではかなり流動化が進んでいるということが言える。
座長	ここまでの何か質問はないか。では6ページ、7の分析結果の概要版ということであるが、これはどういう資料か。
事務局	これも前回の入選審の方で出させていただいた、冊子として出している分析結果を1枚にまとめた概要である。

座長	進め方の時間配分などを事務局の方から説明願う。
事務局	<p>進め方について、専門委員会は、今日と10月の2回を予定している。2回の専門委員会の審議の中で、先ほど確認させていただいた内容、すなわち、旧制度から新制度への改善点についての検証、制度のより一層の定着に向けての改善について、を審議いただきたいと考えているが、その中から論点を整理してまとめたので、これらの論点について意見をいただきたい。すなわち</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 新入試制度実施に伴う成果や良かった点について、当初の改善の方向の観点で検証 <ul style="list-style-type: none"> <li>中学生が主体的に志望校を選択したり、進路選択をするようになったこと</li> <li>早い時期から学習に熱心に取り組むようになり、学力の向上が期待できること</li> <li>出願基準が明確になり、透明性が増したこと</li> </ul> </li> <li>2 新入試制度実施に伴い顕れた課題や良くなかった点について検証し、今後の方向性を提案 <ul style="list-style-type: none"> <li>前期選抜の募集人数が少ないこと</li> <li>前期選抜の出願者数が多いこと（不合格者が多いこと）</li> <li>出願できる条件の各校の基準について、統一的でなかったり、不透明なこと</li> </ul> </li> <li>3 事務処理上、特に改善が望まれる点 <ul style="list-style-type: none"> <li>調査書の作成の基準日の変更について</li> <li>志願理由書等の様式について</li> </ul> </li> </ol> <p>などを中心に議論いただき、11月の第2回の入選審へ報告をしたい。11月の入選審で、改善が必要と認められれば、12月の教育委員会に報告し、可能なものから改善していきたいと考えている。また、事務局レベルで可能なものは、すでに今度の入試でも改善しているが、さらに、意見を伺えればと考えている。</p>
座長	日程的な確認であるが、11月に今年度第2回の入選審があるので、まずそこに報告することがここのミッションと考えてよいか。場合によっては入選審で、ここの専門委員会の改善提案が認められれば、12月の教育委員会にも提出し、実際改善されるという可能性があるということによいか。
高校教育課長	事務局レベルで済むものもあれば、教育委員会に諮った上で機関決定しなければならない部分と出てくるかと思う。
座長	その辺の仕分けは事務局に任せるので、忌憚のない意見をいただきたい。
高校教育課長	1番、2番が話し合いの中心になる。それらに関して、今日いただきましたものを踏まえて、第2回の専門委員会までに、事務局の方でさらに報告の案という形で整理させていただき、2回目さらに議論を深めていく。そういう流れを考えている。
座長	<p>この検証事項（案）として1、2、3とあるので、いずれは全部を審議するが、今、あったように、今日については、1、2でどうか、という提案である。委員の方々のいかがか。時間の制約もあるので、重点的には1、2で進めさせたいただく。</p> <p>では、第1点目について、審議する。事務局から検証事項（案）の（案）をとっていただく。</p> <p>1について、新入試制度実施に伴う成果や良かった点、それから当初の改善の</p>

方向の観点、つまり、推薦入試には何らかの課題があって、それを解決するために新しい制度が始まった訳で、その当時の趣旨に遡って から までどうかということである。

委員 これまでの推薦入試に比べ校内選考結果による生徒と保護者との確執が無くなったというのは、非常に良かったのではないかと思います。評定平均値などをクリアしていれば誰でも受験機会が与えられる。先ほど3回の受験機会があるということであったが、それよりも、条件をクリアしていれば誰でも出願できるということが非常に大きいのではないかと。それから、従来はあまり見られなかった、主体的な進路志望をする子どもたちが増え、高校の求める生徒像を事前に子どもたちが勉強するということは、主体的な進路選択につながっているのではないかと、そういう良さを感じている。

委員 推薦の時よりも、勉強するようになったという期待をみんな持ったのではないかと思います。高校の校長先生方の手応えとしては、7割強の先生方は、「学力が上がった」と思っているのかなと。だとすれば、今回の制度は、良かったということで評価できると思う。これはつかみで、実際はどうだろうということになる。今後、やはり推薦から学力検査に変わって、子供達の学力は全体的に上がったかどうかの検証は何らかの時点で必要ではないかなと思っている。それが、この をいえる裏付けになるのではないかと。

座長 検証事項の1の について、句点の前後で分割して、勉強する時間というのは見えやすい。場合によってはデータを取りやすい。学力の向上というのはその先であるけれども、2段構えであるわけで。そういう自宅学習や学校での学習時間が、推薦入試時期よりも確保できているというのであれば大きな変化だと考える。

高校教育課長

その時期における中学生の過ごし方に変化があったというのは私もだいぶ聞いている話ではある。それまでであれば、推薦入試に向けて、面接の練習であるとか、作文の練習をしていた時期に、学力検査に向けてずいぶん取り組む姿が見られたと。それでも合格しなかったとしても、そのまま引き続き後期選抜に向けて学力検査の勉強をする。その向かう姿勢に変化が見られたという話が良く聞かれる。ただ、実際それで力がついたのかという測定が難しい。学力検査の問題でさえ毎年変わるので、単純な比較は出来ないと思う。その辺りを、何らかの方法で検証し、きちんと指摘して課題としていきたい。

座長 いろいろな施策をした場合に、学力というものがゴールとして話題になるが、その検証はなかなか難しい部分もあるので、まずは、この1の の前半部分で「熱心に」というのが、長時間というか、あるいはごく限られた教科かもしれないが、少し具体的な追跡調査というか、検証のあり方について事務局でも検討してもらいたい。

おそらく、今からいきなり学校にデータを出してもらうことは難しいと思うので、ただ、検証の観点で、こういうものが専門委員会としては出てきたということは是非入選審には伝えて、今後、そういう方向で検証を継続的にできればいいのではないかと。

それは後ほど委員の方々からも吟味いただければと思う。

委員 1番の事については、推薦入試がなくなったことで、主体的に志望校を選択したところはあるんだろうなと思う。やはり、本校だと、推薦入試では中学校側にある程度選択をお願いをしていた。それは、間違いのない生徒を送ってもら

える訳であるが、それはある意味、中学校側にかなりの負担を強いている部分があったのは間違いない。それは、学校として、高校側の責任で選抜をしなければならないというところがあるので、その はまず、誰でも出願出来るということで、生徒達が学校のオープンキャンパスなどに足を運ぶ。保護者の方々に説明会に来ていただけるところでの関心、それから主体的に考えなければいけないところが強まっているなというのはあるので、そこはいいだろうと思う。

委員 中学校の校長先生からあったように、校内選考の負担はあったのかなと思うし、結果的に前期選抜で各高校の出願基準が出たことによって、出願する人数が増えたということは、とても良かったことなのかなと思うが、その反面落ちた子がたくさんいたことによって親の立場としては、落ちた子のフォローが一番大変だったのかなと思う。ただ先ほどから、勉強を熱心にして学力が上がったということがあったようなので、その点についてはとても良いことなだろうなと思う。

委員 実態というよりは私が今までの話を聞き、あるいは高校にいた昔の経験を踏まえた感想的なものになるかもしれないが、調査書、学校独自検査もあるが、確かに前期選抜で3教科実施すると、先程来話があるように推薦入試の頃と比べて子供達はその期間も勉強するようになるというのはその通りだろうと推測す

る。ただし、高校入試は調査書の内容を含めて、中学校3年間の学習やその他の成果を総合的に審査して判断されるわけであり、学力検査に向けた一部の科目についての受験勉強で身につく学力というものは、狭い意味での学力、受験学力だろうとされていて、それが高校3年間、それからそれ以降の「確かな学力」につながるのかどうかというふうなことについては、どうなのかなという疑問を持っている。それで、私は受験のために高校生も中学生も勉強する、つまり、大学入試のために勉強する、高校入試のために勉強するということは、それはそれで大事なことかとは思いますが、入試制度によって学力を向上させようとする、そういう考え方はどうなのかなと、非常に本質的な部分でもあるかと思うのであるけれども、そういう思いもある。なので、こういう新しい入試制度が、学力向上につながるという、そういうものであればもちろんいいのだろうけれども、それを無理に結びつけるというものでなくてもいいのかなと、いう感じを正直持っている。

座長 非常に重要な意見をいただいた。例えば入試制度でできることとできないことを、分けた方がいいだろうというのはその通りだと思う。検証事項として1番について意見いただいているところであるけれども、 から までで、例えば で「主体的」とはどういうことなのかということをもう少し具体的に考えると、そしてあまり入試制度ですべてを解決するというような発想になると、夢をあんまり広げ過ぎてしまうことになるので、まず に関していえば、検証すべき点として絞るのは、例えば、校風だとか、設立の理念などに共感、賛同して進路選択をする、あるいは中学校側であれば、進路指導のあり方が変わったかどうか、それから高校では広報活動、例えばオープンキャンパスのようなものが、どれくらい活性化したかというような、中学生が入試という大きな進路選択の場に関わる指導のあり方や学校の運営のあり方がどのような変化があったのか、ということ、変わったかどうかをbefore・afterで検証するというのが、できることでないかと私は思う。

らも思っていて、まず、学習意欲を喚起する、つまり生徒を勉強に向かわせるということである。つまり、学力検査を入れることによって、それを1つの目標として、生徒を勉強に向かわせるんだと。その結果としてそれが学力の向上にもつながればというところかと思っている。

委員 この点については、私も委員と同じで、やはりどういう結果になるにしても、学力の向上の期待というのは、入試制度の検証としては、私もそぐわないのではないかと正直思っている。「学力の向上を期待できる」という言い方は、おそらく前期選抜に学力検査が入ったことで、推薦入試等に比べて教科の学習について、中学校の実態として熱心に取り組んできたということは検証としては言えると思うが、それが、ひいては学力の向上を期待するということまでというのは非常に危ないというか、ちょっと心配である。委員からあったように、入試はやはり選抜制度としての部分が基本であって、それを学力向上にという観点というのはあまり望ましくないのではないかと個人的に考えている。

座長 確かに、証明が不可能に近いかもしれないということと、それから、中学校の勉強の場への間違ったメッセージが発せられる可能性があるということだと思ふ。そのことを踏まえて、 の検証事項の前半部分に力点を置いて、検証していこうということによろしいか。  
それから であるが、出願基準が明確になり、透明性が増したということであるが、これは、評定平均ということによいか。

高校教育課長 それも1つだと思う。これまで推薦の時代にも、各学校は期待する生徒像というものを示していて、中学校からすればそれが推薦の基準になっていたと思うが、抽象表現が多かった。例えば、学力は優秀なものとか、基本的な生活習慣が身についているとか、部活動に熱心に取り組む優れた実績を残したとか。優れた実績って何なのかということがあるわけで、そういったものを1つひとつについてできるだけ学校の方が示す。県大会で上位入賞したとか、評定平均であったり、最終的には無くなってしまいましたけど欠席の日数であったりしたわけである。

座長 そうすると、これはもう表に出てる情報で、推薦入試の時もそうであるし、新制度でもすべて高校側から公表している情報である。そうするとbefore・afterについては事務局でまとめられるということであると考えるが、難しいか。

委員 先ほどから考えていたのが、推薦のときは、我々が中学校の中で校内選抜をせざるを得なかった。それが無くなったおかげでこうなったというのが なのか。さっきの話の流れでいくと のような話も出てきたようにも思ったが、私は と思ってる。これまでは、中学校の中で推薦者を絞らなければならなかったわけで、それが無くなったために、透明性が高まったというか、推薦制が無くなってスッキリしたと思う。

高校教育課長 と というのは実はセットであると思う。生徒が、一生懸命進路研究をして、あるいは高校の学校研究をして、そういう中で各学校が魅力ある学校づくりを進めて、「僕はここに入りたいんだ」、「私はこの学校に進みたいんだ」ということを考えるわけで、それで、各学校はそれに対して学校の基準を設ける。そうすると生徒はその基準を1つの目標として、励みとして、それに向け努力していくことになる訳なので、この と というのは、ある意味主体的な進路選択のひとつのセットになっている内容になっている。

座長 についても中学校側と高校側の変化があったわけで、明確に評定平均が出るということと、中学校側としてもそれを受けて、学校でのハードルが無くなった。関門が無くなったわけであり、それで つながっていくということで、ちょっと委員に伺いたい。推薦入試の時には、中学の中ではもっと早い段階で落ちていたんだということだったが、それはやはり、名乗り出たことで初めて学校側のセレクションの対象になるということによいか。

委員 そうである。

座長 知らないところでセレクションしているわけではない。

委員 もちろんである。

座長 あるとき、突然「君が対象になったよ」というわけではなくて、手が上がった者の中からということによいか。

委員 もちろんそうである。

座長 そうすると、校内で選ばれなかったということがわかる。

委員 そんなに多くの数ではないが、委員は、高校の話をされたが、中学校の立場、別な立場からこのことを捉えていたわけである。

座長 検証事項は、最後に委員会として取りまとめなければいけないが、1についてはかなり意見をいただいたので、このあたりで5分休憩を取り、その後、2について意見いただいて、さらに、この時間でまとめられる範囲でまとめるということで事務局よろしいか。

委員 1の について1つだけよいか。主体的に志望校を選択したり、進路選択をしたりするようになったということは、推薦制のときもあったわけけれども、更にそれが良くなったという実態がある。具体的にいうとオープンスクールには生徒がみんな行っていた。

委員 そのとおり、全員行っている。より進路選択をするようになった。

座長 具体的にそういう中学生が積極的に高校の情報を取りに行くようになった。もちろんそれは中学校の指導もあってのことなので、そういうのもこの専門委員会としても言っていきたいと考える。

新入試制度実施に伴い、現れた課題、今後こういうことをメンテナンスというか、少し修正した方がいいんじゃないかというようなことがあれば出していたきたいということで、検証事項として、前期選抜の人数が少ないこと、つまり前期後期の比率は、今のままでいいのかということ。制度の確認であるが、事務局、今各校で選択可能ということによいか。

高校教育課長

幅は決めている。その幅の中で各校が決められることになっている。

座長 ということは、その幅、上限、下限が今のままでいいのかということと、それから、各校の現状がどういう印象を持たれているのかということか。そのあたりについていかがか。やはりこれは中学校側からの意見、あるいは保護者からの意見というのは大きいかなと思う。あとは、高校の事情というのもあると思



うが、いかがか。

委員 については、募集人員が少ないということでは、推薦の時よりも前期でとる人数は少ない。なので、多くの校長先生方の意見としては、もっと増やせないかというような意見はずいぶん多くある。それから、これは当然定員が全体的に決まっている訳であるから、前期選抜でその高校を落ちた場合、別な高校を受験する子がいた。そういう現象があるので、この辺は学校としての指導もあるが、この辺を少し今後学校としても考えていかなければいけないと思っている。要望として、やはり前期選抜の定員をもう少し増やせないかというようなことが大きい。

座長 高校によって前期の受験生を獲得するための戦略として、少し増やしているところもあるのか。

高校教育課長 前期選抜の定員を上限にしていない学校はごく一部にあるが、ほぼ上限である。

座長 ほぼ上限か。

委員 上限の数値が、推薦の時代より下がっている。結局、推薦の時代は、普通科だと30%で、それが20%が上限になった。そこで10%下がって、専門学科でも、40%が30%に下がっているの、専門学科を抱える校長先生方からは、前期でもっととりたいたいというのは聞いている。専門高校の方も、この子であれば、後期でも受けてもらって是非とりたいたいというのが、定員があるために落としてしまうので、学校としては、その子に必ずもう一回受けて欲しい。1回落として再度受験させなくてはいけないというところが、高校のつらいところ。特に、定員ギリギリの学校であれば、うちに来たいと、条件満たして手を挙げてくれたのに、なんでそれを1回落として再度というのはどうなんだろうというのが、どうしても残っている。

高校教育課長 1つには、総定員が決まった中での受験な訳ですから、前期を増やせば、後期が減る訳で、前期の大量不合格に関心はいつているけれども、後期入試の部分だけでいえば、前年度よりも枠が広がっているの、ここ数年では一番の広き門であった。それにしても、やはり受験者数が実際前期後期でこれだけの数出ているわけですから、それを見て、適切な配分というのはやっぱりあるんだろうと。そういったときに、今回の普通科には、後期8割という配分が適切だったかどうかあたりのご意見をいただければと思う。

座長 先ほど委員からは、専門学科、職業高校などでの上限をもっと上げて欲しいというご意見があったという紹介があった。保護者の立場からだと委員いかがか。PTAの会合などでどういった声を聞くか。

委員 確かに人数、割合が下がったことによって、特に前期は狭き門という感じでは聞いている。実際、数人の方ではあるが、初めての試みというか、高校の体制も中学校の体制もまだ不十分な中で、保護者も、ましてや受験生自身もそうだと思うが、前回の推薦であつたら3割のところ2割に減っているところは厳しかったのではないかなとは思っている。

座長 特ににも関わるが、不合格者が多いこと。特にこれがマスコミ世論、保護者からも批判があつたということなので、逆にこれも検証事項に上がってくるといことだが、この落ちる、不合格になるということをどう考えるかだと思ふ。

特に、入試なので、落ちるといふ、一般論としてはあり得る話である。ただ、それがコントロール効かなくなるくらいなのかどうかという意味で、検証しなければいけない訳であるけれども、大学の前期後期入試のように、前期を手厚い定員配分にするという制度設計はなかったのか。

高校教育課長

考え方としては、入試の本番というのはいわゆる一般入試という、後期の部分であるという考え方があって、その中で前期については特色化選抜ということで、一部を抜き出した形で行っている。入試の中心は、あくまで後期の一般入試にあるという考え方であると思っている。

座長

それを、一般入試の後ろに持ってくるという事は考えられなかったのか。

高校教育課長

現行制度だと、2月の上旬に前期を行い、後期選抜があって、もして定員が充足しない学校があればさらに二次募集を行って、最終的には3月の末までの時には入試の事務の一切を終了する。1ヶ月半位の間に3回の入試を行っていくというスケジュールなので、どの入試を先に持ってきてもいいのだが、その入試と入試の間隔、事務の処理等、さらに、生徒に合格、不合格後の次の受験先を考える時間の確保とか、中学校側の手当てとか、そういったことを考えると、どうしても入試を3回行うという中では最低でも1ヶ月半から2ヶ月近い期間が必要になる。そうすると、入試を3回行うことを約束した時点で、1回目の入試は、もう2月の上旬のところはどうしても入ってしまう。今回の新入試を考えるにあたって、もちろん、中学生、中学生の保護者、中学校の教員、高校の進路指導担当者等からアンケートを行っているが、その中で、アンケートの質問項目の1つに、入試の回数というのを聞いている。つまり、何回入試が必要かと。その時の質問に対して、現行と同じ3回確保して欲しいというのが、特に保護者、中学生を中心にかかなりの数に及んでいた。そこで3回というのは、いわゆる前期、後期と名称は変わっているが、2次募集まで含めての3回ということで作るということになった。

座長

時間的な制約もあるので、なかなか動かしにくいということである。これは、落ちる子が前期で多かったわけだが、最終的には、かなり希望のところに合格している。そうすると、事実を丁寧に説明するという事がまず大事で、広報広聴が大事という事。

高校教育課長

参考資料の方の1ページ、これは前の審議会などでも何度かご覧いただいた資料であるが、私が先ほど報告した前期選抜のところの3番目の表の平成24年度の全日を見てもらいたい。推薦入試の時代のものである。この時には募集人員5,066人に対して5,302人出願であるが、差が236名しかなかった。それが、左側の25年度になると、先ほどのとおり、約5,000人の不合格者が出ている状況に変わった。これまでの推薦入試では、極限られた者しか、その推薦入試の機会、チャンスがなかったということである。だから、今度はその要件を緩和としていいのか。各学校が示し、出願要件をクリアすれば誰でも受験できるという形に切り替えたことによって、多くの者が受験機会を得られるようになったということで、これは委員が最初に言われた事である。だから、その結果として不合格者も多く出るようになったという、そういった流れである訳なので、ここまでは、丁寧な説明をしていく中で、理解してもらえない部分ではないかと思っている。入試を3回実現して欲しい。しかも、受験機会を多くの者に設けられるようにして欲しいという要望を踏まえた改善であったので、そのところは、評価していいものかなと思っている。ただ、一方、そうは言っても、これだけ不合格者が出ているのだから、ということに行ってしまう訳で、その改善

の方向として、先ほどの、前期後期の割合や配分の見直しといったところがまずは、私どもが考えられるところかなというのが今の事務局としての考えである。

座長 そうすると、今は、不合格者が想定よりも多いという相場観があると考えてよいか。

高校教育課長 一般的には。

座長 一般としては。それを制度上反映するかという場合に、前期と後期の定員配分を見直したらどうかという事務局案か。

高校教育課長 案と言うよりは、委員の方々におまとめいただきたいところである。

座長 中学校側としては、先ほどご意見いただいたように、増やして欲しいという意見が多いという理解でよろしいか。高校としては、種別というか、学科にもよると思うが。

委員 非常に難しいところであるが、少なくとも専門高校からは増やして欲しいという感覚の声を聞いていたし、そのところはありだと。ただ、一方で、学校にある程度その幅を選ばせてもらいたいという感じはある。その普通科3割、4割、専門高校4割、5割というところで、あとその学校として、出願条件を設定している中で何%というところはある程度選択させて欲しい。そういう形の方がいいのかなというふうには思っている。特に、本校のことを申し上げるが、本校としては、7倍近いところになるから、選抜作業をしてみると、特色ある人を取れるというレベルでは全くなくなってしまふ。我々職員の中にどうしても徒労感が残る。やはり選抜事務というのは、自分達が選抜事務をきちんとやって、自分達が目指した子供達を選抜できてはじめて意味があった。それが、膨大な受験者が増えたことで、処理に追われて、あとは最後はもうほとんど機械的にとるしかなくなったのではないかという思いが残ると、なかなか選抜としてどうなんだろうなというのがあって、うちの学校では、前期と後期の比率のあり方については、様々今後議論していかなくてはいけないというのがあり、ある程度、前後期の募集人数の比率を変えて、学校にその選択の幅というのを設けるような改善をまずやっていただけないかと。その経過を見ている中で、さらに改善が必要というのであれば見ていくというあたりなのではというふうには思っている。

高校教育課長 今の件についていうと、学校裁量幅を拡大していこうというのが今回の改革の1つの方向性でもあるところなので、ある程度一致するところに今のようなお話があるのであれば、その方向での検討というのはできるのかなというふうに思っている。

座長 今日1回目なので、幅の数字やその学科別のものは、今回は保留したい。

高校教育課長 次回に、その辺を含めて資料準備させていただきます。

委員 感想だが、前期選抜というものは、前の制度でいう推薦入試を受けているわけで、その募集定員というのは、中学校側でも高校側でも、推薦入試の募集定員とどうしても比較してしまう訳で、高校側でも、できるだけ早い段階で多くとりたいたい。これ非常によくわかる。中学校側でも、早い段階で多くの生徒の進

路実現，進路決定をさせてあげたいということもよくわかるが，昔の話に戻るけれども，推薦入試の定員の割合というのは，宮城県は，非常に全国的にも高かった。普通科30%，専門学科40%，体育等50%ですね。これ非常に高い。これが現実だった。今，前期後期選抜している県はどのような状況なのか。他県と比較してどうこうという問題ではないが，どのような状況なのかなと。私は今の状況は分からないので，そういうのも教えていただくと大変ありがたい。それからもう1つ、例えば普通科20%を推薦と同じように30%なりに増やしたとして，推薦と違って前期選抜は，ある程度高校が示した条件に沿えば，受験できる訳だから，10%あげても，それに即してまた受験者が増えれば，不合格者は減るといふうにいえるのかどうかという疑問が生じる。前期の定員を増やすのがどうこうという問題ではなく，実際今年の春，新制度の入試を実施して，かなり不合格者が多いという実態ではあるが，仮にこの制度で2年3年やったときに，やはり同じように不合格者が多くなるのかなという，よく見えないが，そういう問題認識がある。その辺を何年か追っていかなければならないと思う。早めに手当てをして%を上げてやるというふうなことによって，不合格者が減るのかなというところが見えない気がする。

座長 前半の指摘で，他県と比較する。一本化してるところと同じところと。

高校教育課長 新制度入試を検討する際にも他県の例というのはだいぶ集めて検討を行ったときに，大きく3つあり，一本化でやっているところと，以前の推薦一般型と，それから前後期型と大きく3つのタイプで行っている。長い歴史の中で，各県1つにとどまることなく，改善，改善，改善という事で入試改革が行われて，いくつかの変遷も経ている。そういう状況にある。いまでもどこに至ってるかというのは最新の情報が手元にないので，2回目の時にご準備させていただきます。

座長 出願基準に関して言えば1の と2の は表裏ということか。そういう理解でよろしいか。

高校教育課長 そういう側面もあると思う。

座長 そうすると，1の の理解だと，推薦の時代に比べて全体的には良くなった。改善されたという事でよい。2の に関しては，そうは言っても，各高校でばらつきがあって不統一である。そして，明確なところが増えたが，不明確なところが依然としてある。あるいは，部活のような，入試からいうと本道ではないということがあるかもしれないが，教科のところ以外の要件がある，という認識でよい。この点については，やはり保護者，出す側として，そういうのを受け止める側では，何か意見は聞いているか。

委員 推薦の時であつたら受かったであろうという子供達が，制度が変わったことによって，そこに受験したときにこんなはずではなかったというところは確かにあったので，ただ，一高のように評定の基準のなかった高校は，子供達にとって本当に行きたい高校の1つであるから，間口が開いたというか，そこでは意欲を持って，いい点ではあったと思うが，ただ，結果的に，受ければ儲けものではないけれども，そういう状態があつて，ある程度他の高校のように評定が出ていればこんな事にならなかつたのかなと思う。

高校教育課長 2つ目の部分というのは大きい部分だと思う。それによって受験機会が広がる訳だから，確かに学校ごとにこのあたりが不統一で，あれもこれもみんな出られるようになっているけれども，そんなひとつ1つの要件を示したのは，その

要件を示すことによって誰かが受けられなくなるのではなくて、その要件に合致すれば受けられることになるので示している。だから、全国大会、大会金賞というのがあることによってその学校を受験できる人が1人でも増えることになる。それがあって誰かが受けられなくなるのではない。だから基本的には幅広く受験者を集めて、受験機会を保障するという観点から様々な要件を設けているという事である。だから、例えば他の要件でも、この要件はそぐわないんじゃないかということがあるのだが、それを外せば、その要件であれば受けられる人が受けられなくなるわけで、それを残すことによって受験できる人が増えるというそういう考えである。だから先ほどの座長から言っていた2番目の観点、ここが実は一番の狙いであったと思う。ただ、それにしても、中学校側から学校の中での教育活動以外の教育活動の部分についても評価しなければいけないのかということについての指摘はある訳で、学校のサッカーの部活で代表で県大会にいったのはいいけれども、学校は全く関知しない個人が家庭や地域で取り組んでいる活動の少年団とかスポーツクラブとかそういったものも出願の条件に当てはまってしまう事についてはおかしいんじゃないかという意見は中学校からたくさんいただいている。

座長 2に関わって、落ちるという事をどう扱うのかという事は、これは、中学校側も保護者側もそうだと思う。受験機会の提供の裏返しなので、不合格をどうフォローするかということは、入試制度本体ではないわけだが、当然付随して検討すべき課題と思う。単純に考えると、落ちるんですよという事を広報広聴するしかないんだと思う。実際落ちたときに、中学校でどういうケアというか、進路指導を、後期に向けてどうモチベーションを高めるかというようなことも2回目でご意見いただければと思う。  
これで、時間が超過している。2回目もあるということなので、今日1と2の検証事項については、様々かなり忌憚のない意見をいただいたので、事務局の方でご意見をリストアップしていただいて、場合によってはそのまとめたものを2回目に出してもらおうという事で今日はよろしいか。  
委員の皆さん。このような形で2回目にとということによろしいか。

高校教育課長 あと、委員の皆さんで、2回目までに是非こういった資料、情報を準備して欲しいというものがあれば、承っておきたい。

座長 その他、特にこういう資料という事があれば、個別にでもいいので伝えていただければと思う。

座長 それでは、6のその他について委員の皆さんから何かあれば伺いたいと思うが。特にあるか。

座長 では、事務局。

事務局 審議に感謝する。第2回目の専門委員会は、改めて通知をしたい。

座長 それでは、本日の審議はこれまでとする。事務局にお返しする。

(閉会)

非公開情報を除き記録概要としてまとめたものである。